

Fujitsu Software

システムウォーカー

Systemwalker

オペレーション

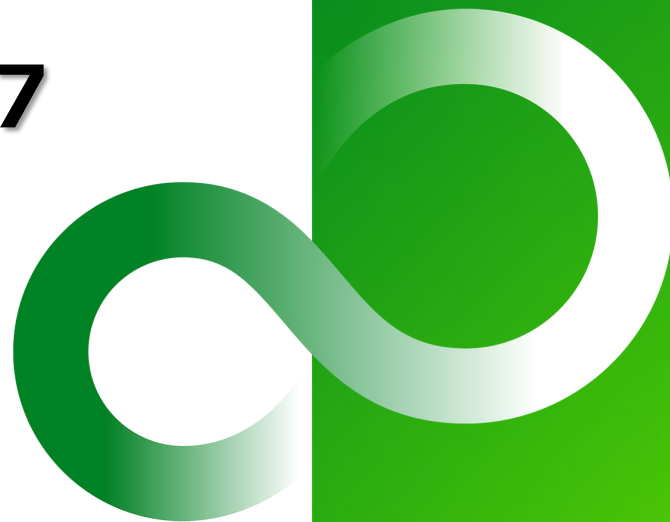
マネージャー

Operation Manager V17

ご紹介

2025年 8月

富士通株式会社



- クラウド環境でのジョブ運用
- Systemwalker Operation Managerによる自動化
- Systemwalker Operation Managerの特長
- 導入事例

クラウド環境でのジョブ運用

(V17の新機能)

デジタル化の波に合わせてビジネススピードが加速し、クラウドの活用が拡大

クラウド環境におけるジョブ連携の課題

- クラウドシフト・クラウドリフトの浸透に伴い、ジョブ実行環境もクラウドへ拡大し、基幹システムとの連携やジョブ管理が煩雑となる
- クラウド環境に合わせた運用形態の変化に追従するために運用コストが増加している



- オンプレミス上の基幹システムとクラウドサービスとのシームレスなジョブ運用の連携
- クラウドの特性を活かしたリソース使用コストの抑制

ハイブリッドクラウド環境でのジョブ運用

特許出願済

クラウドサービス※1上に構築された業務をかんたんに操作/監視/管理

- クラウドサービス連携ジョブのアイコンを配置するだけ
- ジョブとして、実行依頼/完了待合せ/強制終了/正常・異常判断が可能
- 結果を後続ジョブで利用できる

ジョブの構築に要する工数※2
90% 削減!
(当社検証実績)

※1 対応クラウドサービス一例

AWS Batch



AWS Lambda



Azure Batch

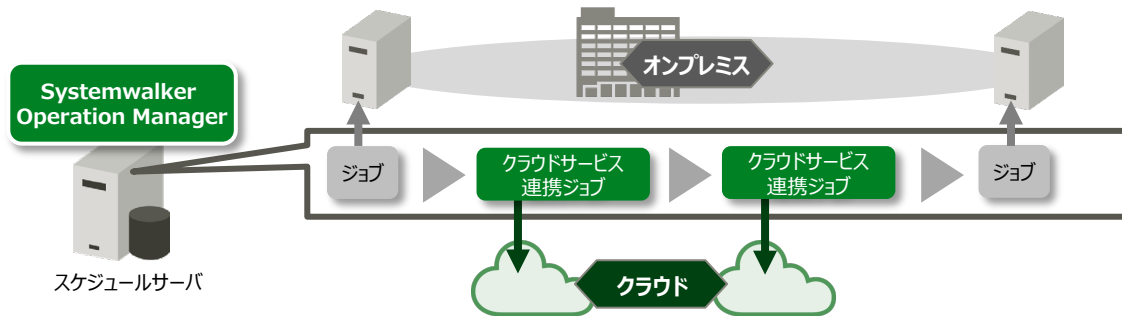


Azure Functions



※2 認証/完了待合せ/結果回収などの作り込みに必要な作業工数

既存の基幹業務とクラウドサービス業務を組み合わせた一元的な運用を実現

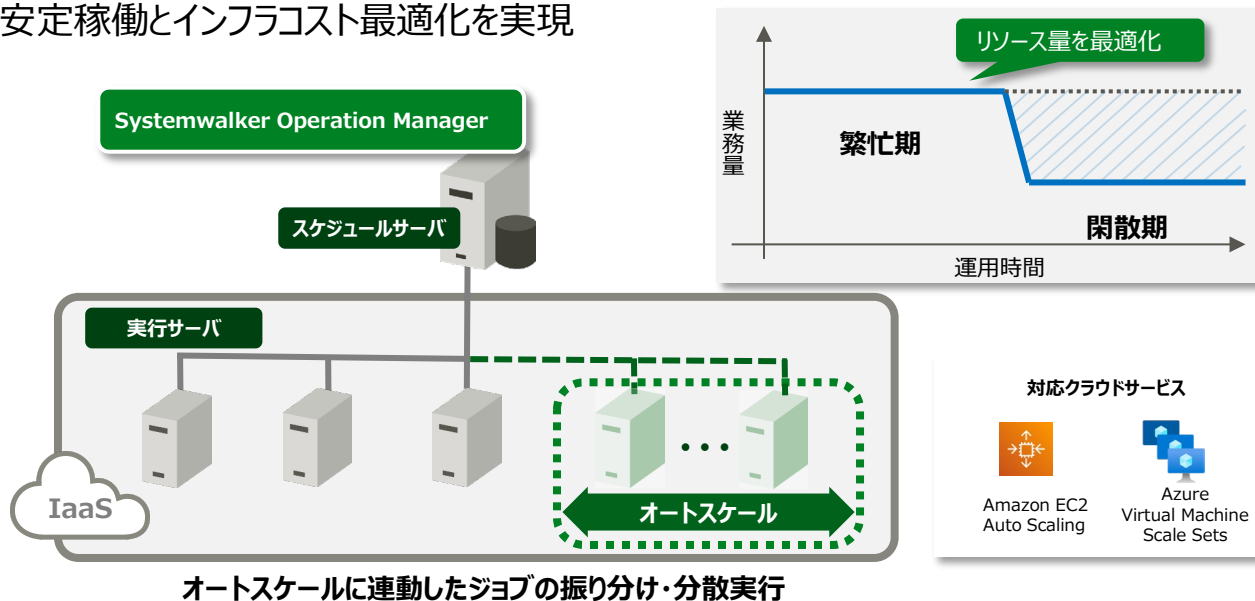


業務量に応じた実行サーバ数の最適化

特許出願済

クラウドサービスのオートスケールに連動して動的に実行サーバを増減

- クラウド上の業務量やリソース使用量に応じて、適切な実行サーバ数での分散実行
- 安定稼働とインフラコスト最適化を実現



Systemwalker Operation Manager による自動化



計画に基づく自動運用で不正操作や人為的ミスを防止

- 「業務の実行～業務の終了確認～バックアップ」までの一連の運用を自動化して、バックアップ手順も標準化



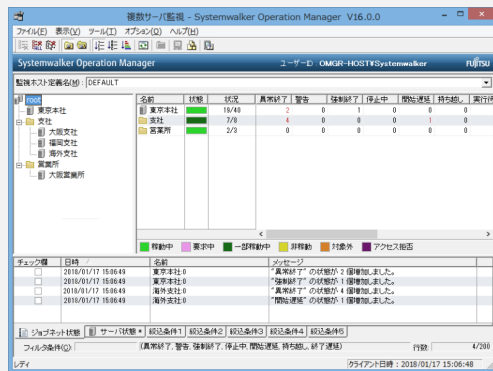
* ERP製品との連携には、Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携が必要です。

* バックアップを行うためには、Arcserveなどのバックアップ製品が必要です。

ビジュアルな監視画面で全体の運用状況を把握

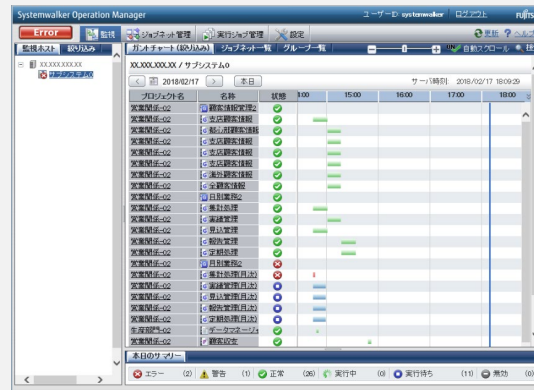
- 全体の運用状況をビジュアルなGUI画面で効率的にモニタリング
- 音声やメールなどで異常を自動通知してトラブル見逃しを防止
- ジョブスケジュールと実行状況の差異を把握

システム全体の監視



複数のサーバでの実行状況は
1画面にサマリ表示

サーバごとの監視



ガントチャートで実行状況を色別に表示

Systemwalker Operation Manager の特長

システムの自動運転に必要な機能を統合

- 一つの製品で業務システム全体の自動化を実現
- 統合製品なので導入作業や環境設定も簡単

Systemwalker Operation Managerの機能

ジョブスケジューリング(スケジュール機能)	Excelでのジョブ設計・定義
ジョブ実行制御 (ジョブ実行機能)	サーバ電源制御
管理クライアント、Webコンソール	ファイル転送、ファイル操作
クライアント業務連携	自動アクション(Windows版のみ)
ジョブネットや稼働状況の印刷	

新システム導入や新バージョンへの移行の作業時間を短縮

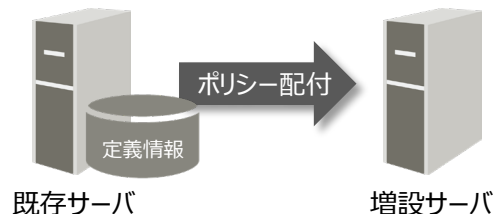
新規導入時	1回のインストールで導入完了 スケジュールや業務の設定もポリシーで一括定義
サーバ増設時	既存サーバの環境定義や業務定義をポリシーで一括定義
バージョンアップ時	アップグレードインストールで定義情報を自動的に移行
環境のバックアップ	業務を止めないでジョブ実行環境をバックアップ

インストールは1回だけ



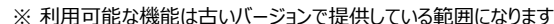
- フル機能を一括インストール
- 導入後、すぐに運用できる環境を提供
- バージョンアップやアップグレードも、インストール時に定義情報を自動変換

定義情報はポリシーとして配付、適用は自動



- 作業は配付だけ、適用は自動適用
- 台数が多くても作業は簡単、短時間で設定

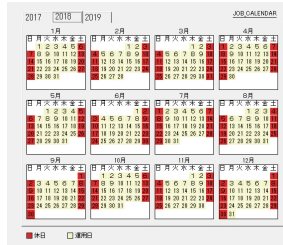
- 異なるバージョンの接続性を保証し、段階的なシステム拡張にも対応
- 旧バージョンからのジョブ資産も保証
- 製品サポートも万全、長期にわたってのご利用も安心



イレギュラーな運用パターンにも柔軟に対応

- 定型パターンはカレンダーで設定、カレンダーは年ごとに自動的に再作成
- 営業日指定、休日シフトも運用サイクルを指定するだけで自動的に設定

- 休日はカレンダーで簡単設定
- 営業日に起動する業務は、カレンダーだけで簡単設定
- 隔週、4半期毎のサイクル起動日も簡単設定
- 起動日が休日の場合、翌営業日へのシフトも簡単設定
- 定型運用に当てはまらないイレギュラーな運用パターンは、起動日雛形として定義



土日や祝日を休日として設定
(未来の予定を事前設定)



月初の「第3営業日」
などを指定

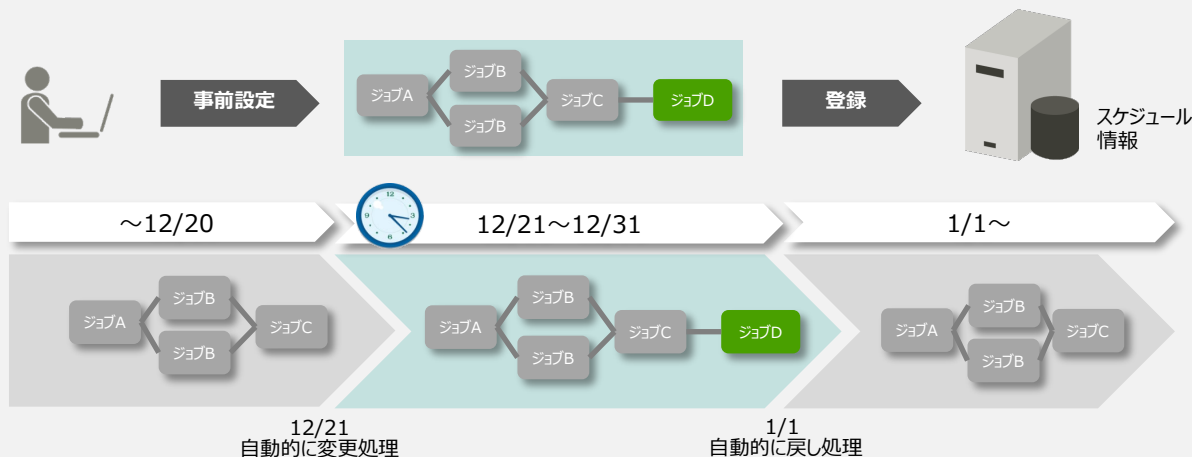


イレギュラーな運用パターンは
起動日雛形として定義

特別なスケジュールも事前設定、戻し忘れの心配不要

- ジョブやジョブネットの運用スケジュールを運用日ごとに管理
- スケジュール変更は事前設定、通常スケジュールへの戻し処理も自動
- 稼働実績の管理も運用日ごとに管理

- スケジュール変更は「指定日以後」の事前を実施し、「指定日以後」に自動的に変更が反映
- 「指定日のみ」の場合は、指定日を過ぎると自動的に変更の戻しを実施



ガントチャートで業務全体をリアルタイムに監視

業務全体のリアルタイム監視

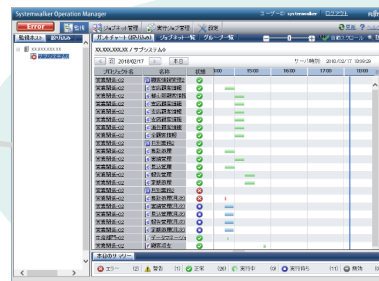
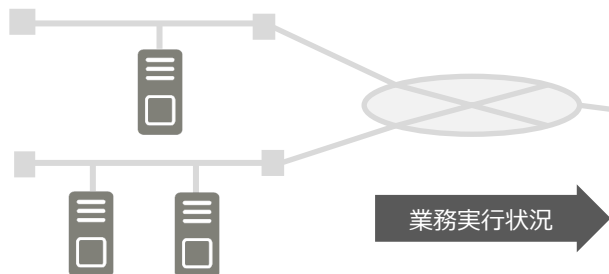
- 業務のスケジュール状況確認
- 業務の実行状況監視

管理者への通報

- メール、イベントにより業務エラーを担当者へ自動通報 ※Windows版のみの機能です。

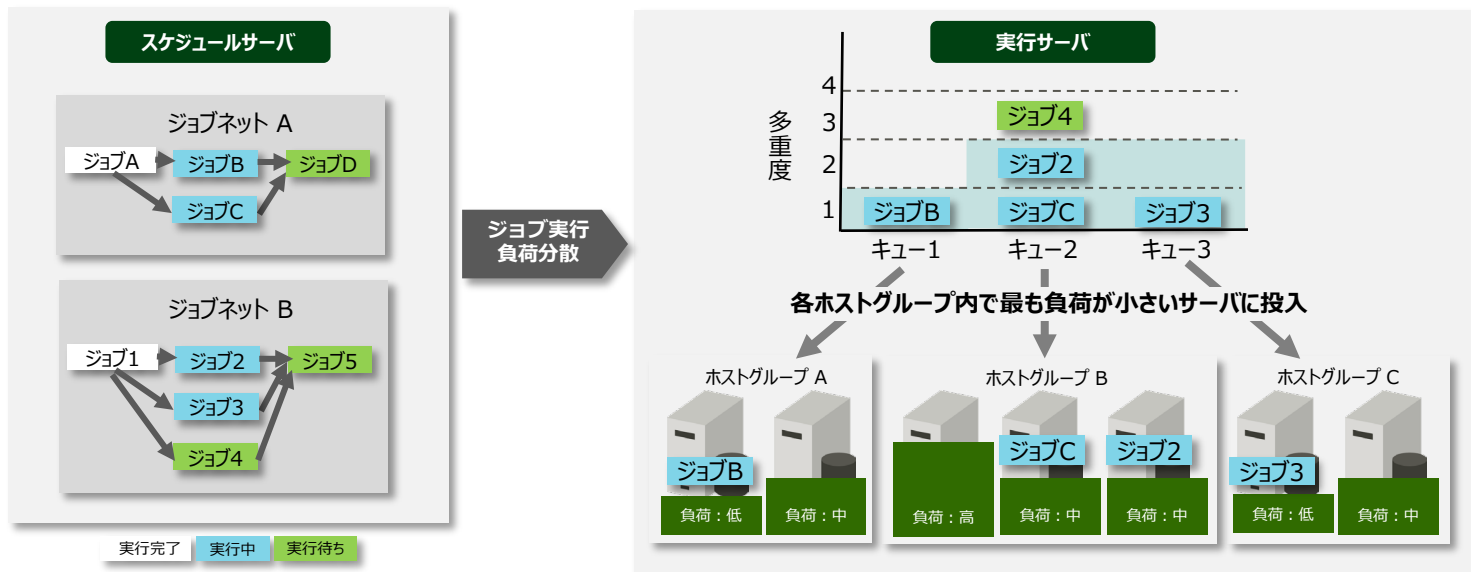
業務の遅延/長時間走行を監視

- 業務の起動遅延、長時間走行を監視して異常時には管理者へ通報
 - ・ 業務が予定時刻に起動しない場合
 - ・ 業務の想定実行時間を超過した場合
 - ・ 業務が予定時刻までに終了しない場合



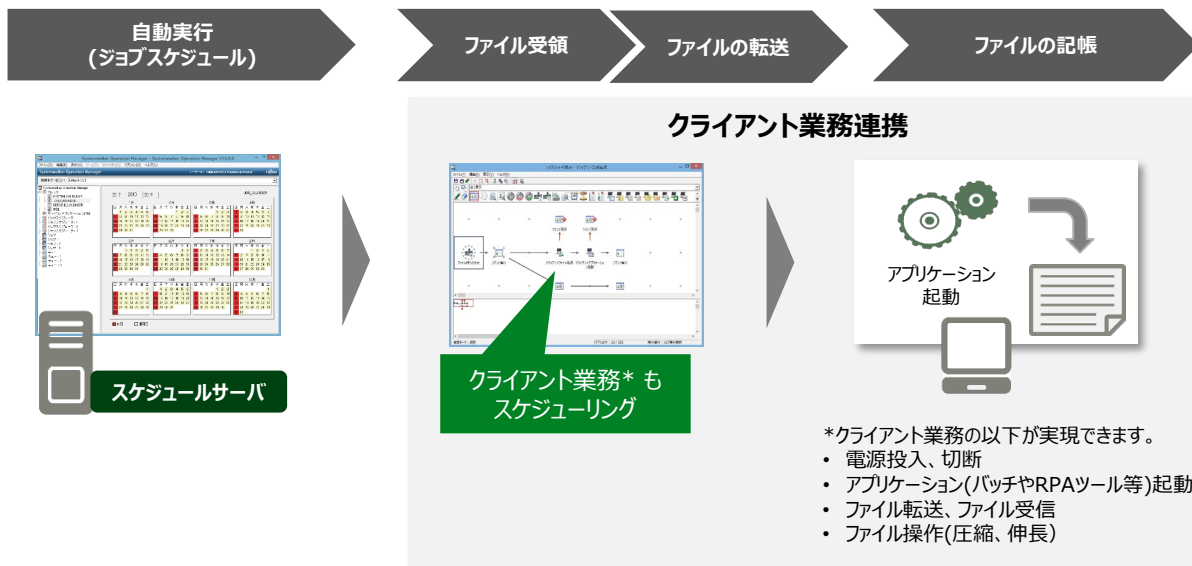
優先順位や多重度により、業務の遅延を防止

- ジョブの優先順位制御や多重度制御によりジョブ実行の高速化を実現
- ジョブ稼働率の低いサーバにジョブを投入、全体の負荷を平準化
- サーバのスペックに応じたジョブ実行制御により全体のリソースを有効利用



クライアント業務を含めた自動化で運用コストを低減

- サーバとクライアント間での業務データのやりとりやクライアントのアプリケーションの実行が可能
- クライアント業務をサーバ上でのスケジュール操作だけで自動運転を実施
- サーバ業務とクライアント業務の一括管理により、業務全体を効率化



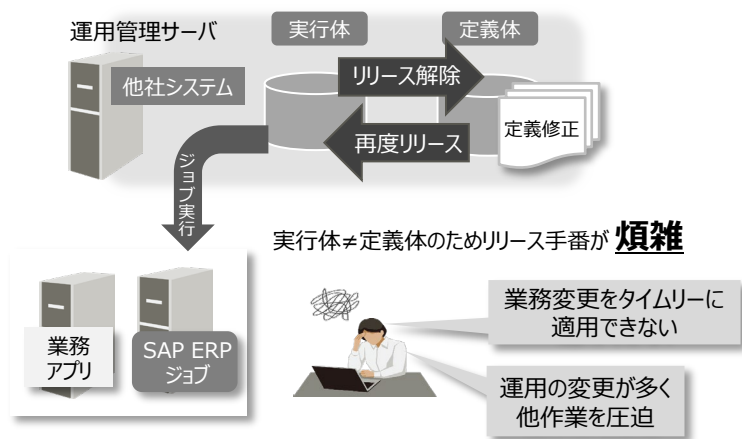
導入事例

運用管理業務を効率化し、変更した運用による業務の開始をスピードアップ

課題

- 頻繁なシステム更改にあわせて運用管理業務を効率化したい
- 変更した運用による業務をできるだけ早く開始したい

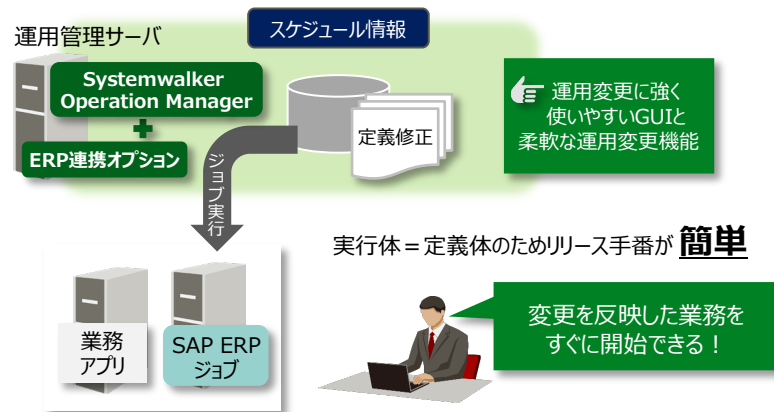
旧システム



導入効果

- スケジュール変更時間の大幅短縮
→ 運用変更作業が **6日→半日** に短縮
翌日には、反映した業務を開始
- 連携オプションでERPジョブも一元管理

Systemwalker Operation Manager 導入後



その他の導入事例については、「導入事例」サイトでご紹介しています。
以下のURLをご参照ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/case-studies/>

- Amazon Web Services、その他のAWS商標は、Amazon.com, Inc.またはその関係会社の商標です。
- Linux®は米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Azureまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Oracle®およびJavaは、オラクルおよびその関連会社の登録商標です。
- Oracle Solaris はSolaris、Solaris Operating System、Solaris OSと記載することがあります。
- Red Hatは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.およびその子会社の登録商標です。
- UNIXはX/Open Company, Ltd.の登録商標です。
- VMwareおよびVMwareの製品名は、Broadcom Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。
- そのほか、本資料に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Thank you

